

ビジネス社 News Release

がんサバイバーの芥川賞作家高橋三千綱と「近藤理論」でお馴染み近藤誠が初対談！

『がんを忘れたら、「余命」が伸びました!』

(著者)近藤 誠、高橋 三千綱

〈価格〉1,200 円十税 〈発売日〉2017 年 6 月 16 日 〈出版元〉ビジネス社

株式会社ビジネス社(東京都新宿区:代表取締役社長 唐津隆)は、2017 年 6 月 16 日に『がんを忘れたら、「余命」が伸びました!』を発売いたしました。

◎本書の特徴

十二指腸潰瘍、肝硬変、食道がん…

かつて「余命 4 カ月」と宣告された作家は、

胃がん発覚の際、がん治療を拒否。

医者からは「半年したら大変なことになると」告げられるも、

それから 4 年がたち、ますます元気だ——。

命が惜しけりや、医者に近づくな!

医者は、今日もやりたい放題！

●健康診断をやめれば、日本のがん患者は今の半分まで減る

●がんの手術をする、抗がん剤を使う医者は全員がウソをつく

●「がんはこわい」「がんは痛む」は、医者が作り上げた都市伝説

●本物のがんはメスが入ったらもうアウト

●嫌だと言っても点滴したがる医者は、疑った方がいい

●免疫療法をはじめ、「がんが治る」と言っているものはみんな詐欺

●世の大多数は「がんは検診が大事。早期発見が大事」と信じ込んでいる

●医者が進める治療に傾きかけている人間を、どう踏みとどまらせるか

◎本書の内容より

第 1 章 苦しみたくないなれば、がんは治療するな！

第 2 章 「余命 4 カ月」病気のデパートが、がん治療を踏みとどまれた理由

第 3 章 人はなぜ、がんになるのか——

第 4 章 悪徳医療にだまされて

第 5 章 がんへの「誤解」を解く

第 6 章 がんは放置して、上手につきあう



著者への取材、企画ご協力、読者プレゼントご対応も承ります。

《 お問い合わせ先 》

株式会社ビジネス社 広報担当: 松矢

〒162-0805 東京都新宿区矢来町114番地 神楽坂高橋ビル5F

TEL 03-5227-1602/FAX 03-5227-1603

◎著者

近藤 誠

1948年、東京都生まれ。近藤誠がん研究所所長。73年、慶應義塾大学医学部を卒業。76年、同医学部放射線科に入局。79~80年、米国留学。83年より同大学医学部放射線科講師。2014年、定年退職。乳房温存療法のパイオニアであり、長年にわたる臨床経験と膨大な医学データをもとに、手術、抗がん剤治療など、がんの「標準治療」を痛烈に批判、敢然と異を唱えている。がんの常識を覆す、その主張は「近藤理論」「がん放置療法」として知られる。

高橋 三千綱

1948年1月5日大阪府生まれ。作家、高野三郎の長男として生まれる。高校卒業後、サンフランシスコ州立大学入学。帰国後『シスコで語ろう』を自費出版。早稲田大学へ入学するが中退し、東京スポーツ新聞社入社。1974年『退屈しきぎ』で第17回群像新人文学賞、78年『九月の空』で第79回芥川賞を受賞